

# 経営比較分析表（令和5年度決算）

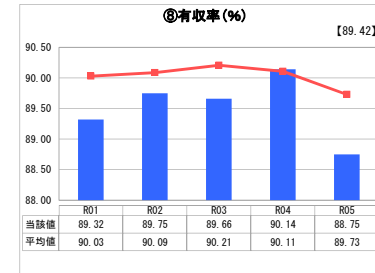
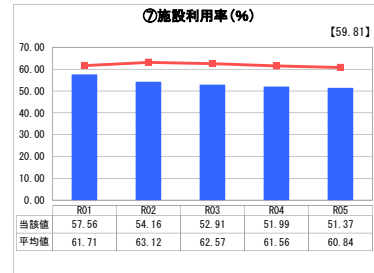
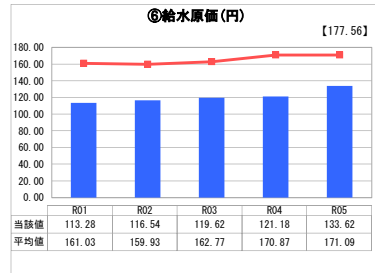
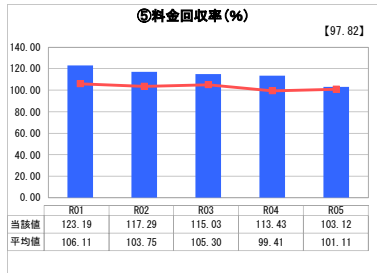
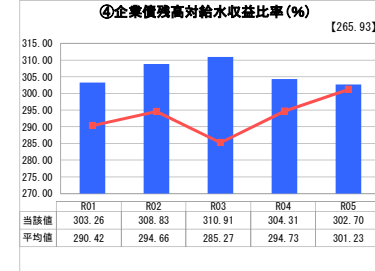
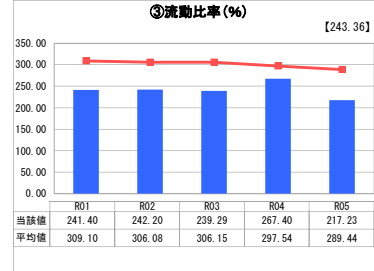
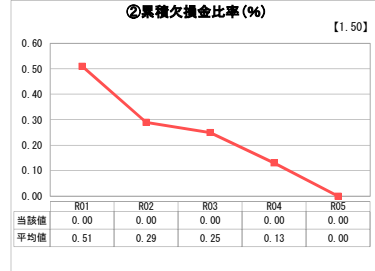
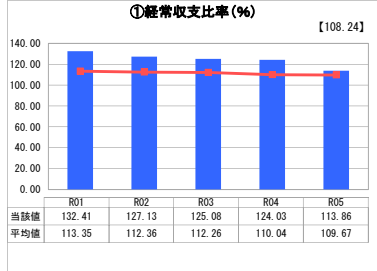
福井県 福井市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)	
-	68.25	97.97	2,255	

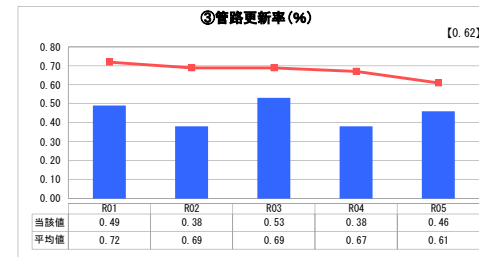
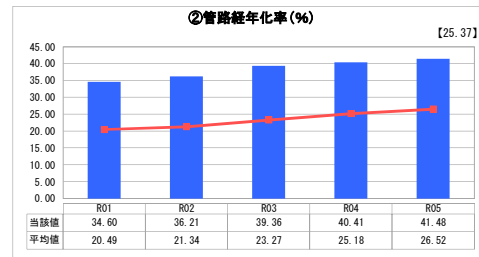
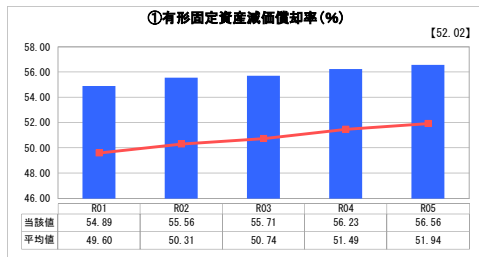
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
255,949	1,401.35	182.64
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
249,334	263.10	947.68

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和5年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」は、100%以上を維持しており、健全な事業経営を行っている。

「②累積欠損金比率」は、0%であり、欠損金は発生していない。

「③流動比率」は、100%以上を維持しており、適正な支払能力を確保している。

「④企業債残高対給水収益比率」は、類似団体と同水準であるが、今後、投資に伴う企業債発行額の増加が見込まれるため、適正な企業債残高を維持していく必要がある。

「⑤料金回収率」は、100%以上を維持しており、給水に係る費用を給水収益で賄えている。

「⑥給水原価」は、類似団体と比較して低く推移しており、有収水量1mあたりの費用は低く抑えられている。

「⑦施設利用率」は、類似団体と比較して低く推移しており、施設規模の適正化を図っていく必要がある。

「⑧有収率」は、類似団体と比較して低く推移しており、漏水箇所の特定と管の修繕等を行い、改善に努めていく必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

法定耐用年数を超過した資産を多く保有していることから、「①有形固定資産減価償却率」及び「②管路経年化率」は類似団体と比較して高く推移しており、老朽化が進んでいる状況である。

一方、「③管路更新率」は類似団体と比較して低く推移しており、引き続き、管路の重要度や優先度を判断し、計画的な更新を実施していく必要がある。

## 全体総括

本市の水道事業は、令和6年に事業開始から100年を迎え、施設の老朽化が進んでいる状況にある。今後も老朽化した施設の更新や耐震化に多額の費用を要する一方、給水収益は減少が見込まれ、経営環境は厳しさを増していくと考えられる。こうした状況のなか、将来にわたり安定してサービスを提供するため、「福井市水道事業ビジョン2020」に基づき、計画的に更新を進めていくとともに、維持管理の効率化を図り、経営の健全化に努めていく必要がある。